

第6学年国語科学習指導案

児童 男子13名 女子13名 計26名
指導者 後藤 孝一

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名 中心教材「平和のとりでを築く」(説明文)
「自分の考えを発信しよう」
補助教材「平和に関する資料」

2 単元について

(1) 児童について

児童は5年時に「ニュース番組作りの現場から」の学習で、情報を集め、対象を決め、その情報を発信するという学習をしてきた。また、6学年1学期には、「生き物はつながりの中で」で、筆者の考えを基に自分の考えをもつことを学習してきた。しかし、子ども達のノートを見ると考えは書いているものの、何を根拠にしているのかということがはっきりしない児童が多数いた。

児童の国語に関する意識調査では、国語に対して全くの拒否反応を示す児童は少ないものの、自分の考えを書くことが好きかという問いに対し、11名が好き、15名が好きではないと答えている。

これらのことから、自分の考えをもっても、根拠がはっきりしないため自信がもてていないのではないかと考えられる。そこで、本単元で、根拠をもって自分の意見を発信できる力を付けるための手だてを組んでいきたい。

(2) 単元及び教材について

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」という2教材から構成されている。「平和」ということを窓口として、「環境」「福祉」「国際理解」といった「自分たちの未来」に対する自分の考えを発信することを主なねらいとしている。また、自分が書く目的や意図に応じて、自分が考えたことを筋道を立てて文章に書き、それを効果的に、スピーチで表現することができるようになることもねらいとしている。

教材文「平和のとりでを築く」の内容を読みとり、筆者の訴えたいことについて理解し、それをきっかけに、小学校生活の六年間で学んだことや体験したことから「自分たちのよりよい未来」に対する自分の考えをしっかりともち、友達、家族、社会へと発信できるようにさせる。そのために必要な情報を集めて取捨選択させ、効果的な表現方法を工夫させることで、情報活用の質を高めたい。

このように、本単元は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の能力を総合的に発揮するという学習活動であり、これまで培ってきた知識や能力、態度など全てを使って挑むことになる上で価値がある。

六年間という長い小学校生活のまとめをするこの時期の子ども達にとって、このような活動は大変有意義だと考える。国際社会、情報社会、福祉社会といわれる激動の二十一世紀の社会を生きる子ども達にとって、そのような未来を見据えるということは意義のある学習活動であると言える。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、児童の実態から、根拠をもった意見文の教材として位置づけ、文章構成に着目して要旨をとらえさせる。

また、補助教材を用い、平和に対する自分の考えに合う事実の見つけ方と、引用した事実を根拠として意味づける方法を学習していくようにする。

仮説に関わって、仮説①「課題を明確にする工夫」において、単元のゴールとして、「平和」に対する自分の考えを一つの文にするということを常に意識させる。また、随時、最終目標を確認しながら学習を進めていきたい。仮説②「自分で読み進める工夫」として、筆者に対する自分の考えをもつため、文章構成に着目して要旨をとらえさせたい。仮説③「言語能力を高める工夫」として、中心となる言葉をおさえて読み進めるとともに、説得力のある意見文を書くために根拠を明確にしているかを小グループ内で読み合いながら進めていきたい。

3 単元の目標

[目標]

◎筆者が訴えたいことを読みとり、それについて自分の考えをもつと共に、「平和」についてさらに考えるために調べたり、話し合ったりし、深まった考えをわかりやすく組み立てて書いて交流する。

[国語への関心・意欲・態度]

・筆者の考えを受けて、自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって調べたり、進んで話し合ったり、書いたりしようとする。

[書くこと]

・補助教材からデータを読み取り、それを根拠に平和について自分の考えを書くことができる。(書くこと ア・イ)

[読むこと]

・事象と筆者の意見・主張の関係をおさえ、内容を的確に読みとると共に、自分の考えをもちながら読むことができる。(読むこと エ)

[言語についての知識・理解・技能]

・自分の考えたことを効果的に伝えるために、根拠を明確にし、文章構成を工夫することができる。(言語事項オ(ア))

4 指導計画と評価規準 (14時間 本時4/14)

次	時	学習活動	関・意・態	書くこと	読むこと	言語事項
一	1	○題名や資料から戦争や平和に関心をもち、知っていることを出し合う。	戦争や平和について自分の考えを話そうとしている (観察)			新出漢字や語句の意味を理解している。 (観察)
次	2	○読みの計画を立てる。 意味段落に分ける 要点をまとめる。	進んで学習の計画を立てようとしている。 (観察)		内容を考えながら読んでいる。 (教科書)	
	3	○全文を読み、原爆ドームの呼び名の変化を考える	内容に興味をもち学習に取り組んでいる。(観察)		指示語に注意しながら読んでいる。 (観察)	
	4 (本時)	○要旨をとらえて筆者の伝えたいことをまとめる			キーワードをとらえ、伝えたいことを書いていく。 (ノート)	キーワードをとらえている。 (ノート)

	5	○資料から、平和について考える。		平和について自分の考えを書いている。 (ノート)		
二次	6	○補助教材①から、国際紛争について考えを書く。	補助教材を進んで読みとろうとしている。 (観察)	紛争をやめられない理由を書いている。 (ノート)	紛争をやめられない理由を読みとっている。 (ノート)	根拠を明確にしているか。 (ノート)
	7	○補助教材②から、武力による平和について考えをもつ。		武力による平和について自分の考えを書いている。 (ノート)	武力による平和について資料を読みとっている。 (ノート)	
	8	○補助教材③から、武力を持たない平和について考えを書く。		武力を持たない平和について自分の考えを書いている。 (ノート)	武力を持たない平和について資料を読みとっている。 (ノート)	
三次	9 10	○仮の要旨を書き、根拠を整理し、構成メモを作る。	学習を振り返る、平和についての意見文を意欲的に書くようとしている。 (観察)	平和について自分の考えを意見文として書いている。 (ノート)		根拠を明確にし、多方面から平和についての意見文を書いている。 (ノート)
	11 12 13	○引用する事実と解釈等を入れて意見文を書く。				
	14	○友達同士で発表し、評価し合う。	交流会に進んで参加している。 (観察)		友達の意見文を読み感想を交流している。 (観察)	

5 本時の指導

(1) 目標

根拠となる語をとらえて、筆者の伝えたいことをまとめることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価基準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手だて
評価の観点			
根拠となる語をとらえ、筆者の伝えたいことについて理由を付けて書くことができる。	根拠となる語をとらえ、それをもとに筆者の伝えたいことについて理由を付けて書くことができる。	本文から根拠となる語をとらえ、筆者の伝えたいことについて書いている。	本文の中で一番多く使われている語を見つけさせ、13段落の2文のうち、どちらがより大切かを考えさせる。

(3) 展開 (4 / 14)

	学習活動	支援・留意点 (・) 評価 (*)
つかむ 3分	1 前時までの学習の想起 2 学習課題の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 筆者の伝えたいことについて理由をつけて考えよう </div> ① 読みの視点を確認する。 キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームがユネスコの世界遺産への仲間入りを果たすまでの年月を想起させる。 ・本文全体で一番出てきた言葉に着目することを確認する。
ふかめる 37分	3 学習場面の音読 <ul style="list-style-type: none"> ・全文音読をする。(個人読み) ・段落⑫⑬を音読する。(一斉読み) 4 学習課題の解決 ① 段落の⑫⑬どちらに重点を置いて解決していけばいいのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・題名が入っているので⑬に重点を置いている ・記念碑から世界の遺産へと書き方が変わっているため⑬の方に重点を置いている ・「・・・だ。と言い切っているので」 ② 筆者の伝えたい一文を見つけ、「見る人の心に平和のとりでを築く」の意味するところを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた意見を小グループで発表する。 ・グループとしての考えを短冊黒板に書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 平和のとりでとは、人の痛みを自分の痛みとして考えるということ。 筆者は原爆ドームをみて、二度と戦争は起こしてはいけないということを伝えたいのだと思う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点を意識させながらはっきりと音読させる。 ・⑫⑬どちらが筆者の伝えたいことが強いのかを考えながら読むことを確認する。 ・⑬段落がより、筆者の伝えたいことが強い根拠となるものを探させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> *筆者の伝えたいことの根拠を探すことができたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦争は人の心の中にうまれる。」に対し、「見る人の心に平和のとりでを築く」という叙述の意味するところを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> *叙述を丁寧に読みとりながら、根拠を明らかにして筆者の伝えたいことを考えることができたか。 (ノート・発言) </div>
5分	5 振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の感想を書く 6 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の思いについて自分の考えを書くよう視点を与える。 ・次時では教科書P40から平和について考えていくことを伝える。

6 板書計画

平和のとりでを築く
大牟田 稔

筆者の伝えたいことについて理由を付けて考えよう。

読みの視点
キーワード

⑬ ⑬ ⑬
題名が入っている
記念碑から世界の遺産へと
変わっているから

⑬
文末で言い切っているから

「平和のとりでを築く」

子ども達の考え